

「座」空間がまちを創生・活性させる

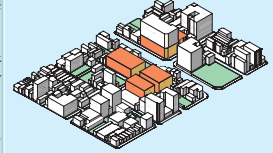
—市民と創る、次世代の七間座文化の形成—

- メインストリート・細街路・通り抜け空間を形成する(回遊空間を創る)
- 広場・パティオ・ポケットパークを形成する(滞留空間を創る)
- 建築・都市風景・アーバンデザインを形成する(まちなみ空間を創る)
- 人・文化・記憶・地域コミュニティを形成する(交流空間を創る)

『七間座』を形成するマスタープランづくり

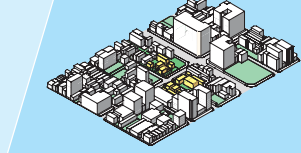
stage1: ストリートから成る都市空間 〈グリッド形状の街区と都市の空洞化〉

現在、映画館を起点とした「七茶通り」として、シネマ・ストリートとしての南北に走る中心軸性をもったメインストリートと、東西に通るアーベニューによって形成されています。店舗空間や住空間は、通りからのアプローチによって形成されたまちなみが七間町の表情を育てています。近年では、多くの空き地や駐車場の存在が目立っています。



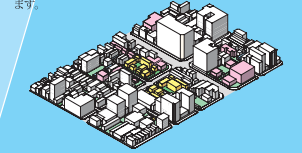
stage2: 映画館跡地に新たな機能・空間を形成 〈七間座ステーションによる都市機能づくり〉

都市機能として「七間座」による地域づくりを行います。文化は、人の活動や交流により自ら成長するモノであり、七間町における文化形成は、時に共に成長する「座」空間という空間要素の展開で行われます。映画館跡地には、集積する文化拠点を提案し、七間町の通りや空地、住空間、既存建築へと都市文化の分散を図ります。



stage3: 循環・活性する七間座と地域創生 〈ネットワークする人・まち・空間・時間づくり〉

七間座ステーション(映画館)の創設に伴い、都市へ広がる文化ネットワークを行います。細街路空間の創出により新たな可能性を育て、街区空間の再生(歩行・広場空間)を行います。また、ロータリー機能を備えるまちとして、歩行者のための回遊空間は、都市の新たなファーストを形成し、「七間座」は時間と共に様々な表情を創る都市へと生まれ変わります。



A 「七間座・市民菜園」に集う 【園座を創る】



B 「七間座・住まい」に集う 【くらし座を創る】



C 「七間座・路地空間」に集う 【細街路を創る】



D 「七間座・ステーション」に集う 【コア座を創る】



E 「七間座・ホーム」に集う 【仲間座を創る】



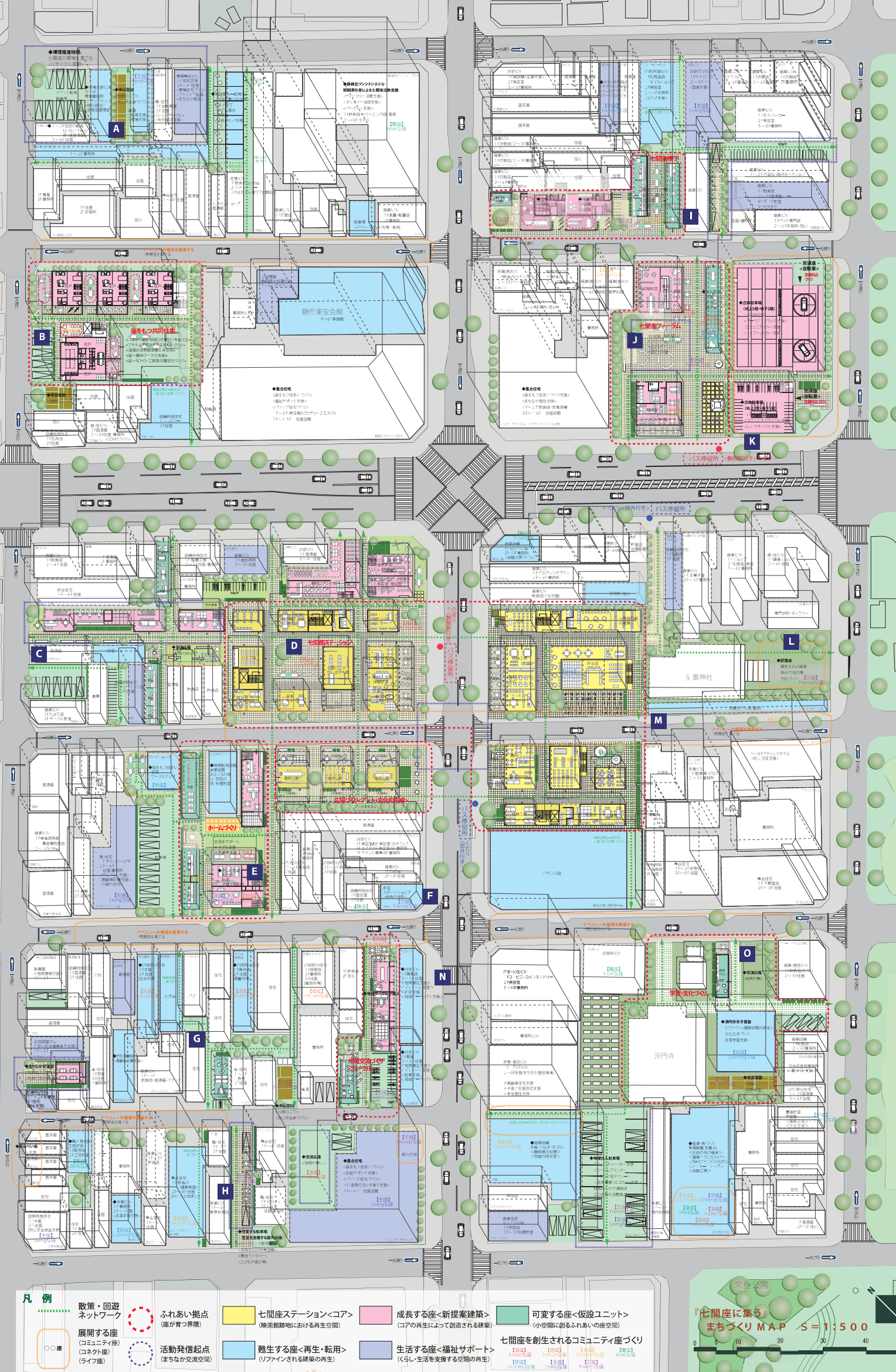
F 「七間座・街角」に集う 【交差点座を創る】



G 「七間座・パティオ」に集う 【ニワ座を創る】



H 「七間座・駐車空間」に集う 【可変座を創る】



I 「七間座・横丁」に集う 【小屋座を創る】



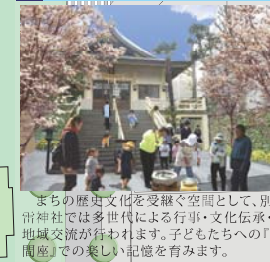
J 「七間座・フォーラム」に集う 【広場座を創る】



K 「七間座・ロータリー」に集う 【交通座を創る】



L 「七間座・寺社」に集う 【記憶座を創る】



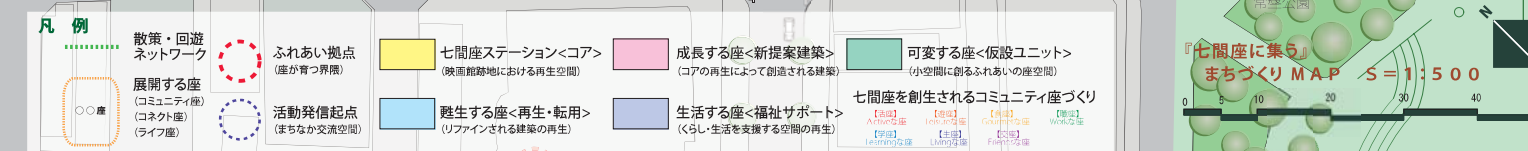
M 「七間座・アーベニュー」に集う 【界隈座を創る】



N 「七間座・メインストリート」に集う 【軸座を創る】



O 「七間座・リノベーション建築」に集う 【景観座を創る】



七間座ステーション: 文化集積のコア広場

映画館跡地は、新たな七間町の文化(七間座)を育てるコア広場拠点へと創生します。七間座ステーションは、市民創造により育てられる文化づくり、くらしのサポート、歴史・伝統技術の継承と共に、「座」によるコミュニティを形成する集積拠点へと成長します。また、市民・外来者(観光・研修・交流)がネットワークする起点が育てられ、人々が参加できる空間です。



【七間座ステーション・デザインコンセプト】

- 街区を超えての一体化のデザイン
- 連続する通り(通り抜け路地)空間
- まちのコアとしての集積空間性
- 連続性ある景観ファーストづくり
- アクティブ空間へ広がる空間づくり
- 内と外をつなぐ中間領域性空間
- スタイリッシュな建築による環境づくり
- ヒューマンスケールに併せた低層化



◆七間座ステーション 文化・産業・生活・環境・健康・職業

- ライフ・ワーク・バランス/ロハス生活/教育支援/子育て支援/福祉支援/高齢文化支援/高齢者福祉支援/地域環境(体験型) 郷土料理/安心安全/景観維持/GR運動/認知症対応(CASPEE)/七間町メモリアル/交通/観光/生計学支援/福祉まちづくり支援/地域再生/静岡地産ブランド/人材育成/情報化社会/健康増進/ボランティア活動/サークル活動 など

